

# Bulk Forming

(社) 日本塑性加工学会 鍛造分科会ニュース No. 37 2002年8月

## 新任のご挨拶

主査：静岡大学 中村 保

幹事：名古屋大学 石川 孝司

暑中お見舞い申し上げます。

鍛造分科会委員の皆様、新任のご挨拶を申し上げます。

2002年6月7日(金)、千葉県木更津市におきまして、2001年度鍛造分科会総会が開催されました。1998年度～2001年度の4年間、主査：熊本大学 濟木 弘行先生、幹事：横浜国立大学 小豆島 明先生を中心とした運営委員会によって、当分科会が運営されて参りました。その間、毎年、定例の2回の研究集会、及び実務講座をはじめ、34th ICFG (第34回国際冷間鍛造会議)、日本塑性加工学会シンポジウム、基礎セミナー「わかりやすい鍛造」等を企画・実行するとともに、各研究班が活発な活動を行ってこられました。

この度、2002年度～2006年度の4年間、下記のような新たな運営委員会が、鍛造分科会の運営をお預かりすることとなりました。この運営委員会をもって、当分科会委員の皆様方にとり魅力ある分科会活動となりますよう尽力したいと思いますので、積極的なご参加をお願い申し上げます。

さて、当分科会は、1969年4月に、当時、横浜国立大学教授の工藤 英明 先生によって、日本塑性加工学会第1号として冷間鍛造分科会という名称で創立されました。工藤先生のリーダーシップと産学官協調体制のもとで、自動車、自転車、電気機器産業における冷間鍛造製品の拡大に向けた冷間鍛造技術の研究開発が極めて活発に行われ、その結果、日本の冷間鍛造製品のシェアは世界No.1にまで発展しました。この点において、塑性加工学会の中でも、鍛造分科会は、大学等における研究開発と実際の産業界の技術開発が大変うまく協調しあって発展することに多大な貢献をなしてきた模範的な分科会となってきました。

1990年頃から、温間鍛造の研究開発が盛んになり、当分科会も冷間鍛造だけでなく、温間鍛造及び熱間鍛造も含めた研究開発、技術開発、技術教育等の役割を果たすことが求められるようになり、分科会の名称を「鍛造分科会」に変更しました。

このように偉大な先達をお勤めになられた工藤先生が、突然、2001年1月7日に亡くなられたことは、我が国だけでなく世界の鍛造技術の発展にとって大変な損失になっていることと思います。しかし、悲しんでばかりはおられませんので、先生のご薫陶を受けた鍛造分科会の委員の皆様方、個人個人が先生のご意志を引き継ぎ、鍛造技術の発展に邁進されますよう祈念申し上げます。

**「工藤英明先生を語る会」が2002年7月27日（土）に新横浜プリンスホテルで開催され、約90人の多くの皆様方が参加されました。この機会に記念として編纂された工藤英明先生博士論文選集が、工藤家のご厚意により、分科会の全員に贈呈されることとなりましたので、当日ご出席できなかった皆様方に同封致します。皆様方からも御礼のご挨拶をお送り頂ければ幸いです。**

工藤先生が主査を引退されて後、1989年度から1993年度まで大阪大学の小坂田先生が2代目の主査、1994年度から1997年度まで名古屋大学の近藤先生が3代目の主査、1998年度から2001年度まで熊本大学の済木先生が4代目の主査を勤めてこられました。いずれの先生も、国内外において、鍛造の有限要素法解析の研究開発、歯車の冷間精密鍛造法の研究開発、あるいは熱間鍛造に関する研究開発等の研究分野でリーダー的存在として活躍されておられる方々です。その後を引き継いだ5代目の主査は、鍛造の分野をリードするだけの業績も力量もないため、私一人で当分科会のとりまとめを行うのは極めて心許ない状況です。しかし、幸い、幹事の石川先生を初めとした極めて有能な運営委員の皆様方、及び経験豊富な事務局の西山さんに支えられていますので、何とか4年間の責務を全うしたいと考えています。

さて、今期の鍛造分科会では、定例の年2回の研究集会及び年1回の実務講座につきましても、各地区担当の運営委員の皆様方をお願いして魅力ある企画を提供し、分科会委員相互の研鑽の場としてお役に立てたいと考えています。また、各研究班の活動をより活性化するため、研究プロジェクトやデータベースの作成を目指した活動も、少しずつ増やしていけたらと考えています。このような鍛造分科会の活動を通して、産官学の協力体制を強化することにより、日本の鍛造技術が世界No.1として世界をリードする立場であり続けるように、不断の努力を継続して行きたいと考えます。

そのためにも、委員の皆様方の積極的なご協力を賜りますようお願い申し上げます。とくに、委員の皆様方の廻りで、まだ当分科会に参加されておられない鍛造関連の技術者・研究者がお見えになりましたら、是非、当分科会へのご加入をお勧め頂ければ幸いです。

## 鍛造分科会 運営委員会

(2002-2005 年度)

主査	中村 保 (静岡大学)	
幹事	石川 孝司 (名古屋大学)	
情報担当	清水 透 (産業技術総合研究所)	北村 憲彦 (名古屋工業大学)
国際担当	関口 秀夫	堂田 邦明 (岐阜大学)
監査	小野 宗憲 (大同工業大学)	
顧問	済木 弘行 (熊本大学)	
北日本地区	小野 信市 (日本製鋼所)	
東日本地区	小豆島 明 (横浜国立大学)	瀬川 幸平 (ホンダエンジニアリング)
	戸田 正弘 (新日本製鐵)	山中 雅仁 (ヤマカゴーキン)
中日本地区	石原 貞男 (トヨタ自動車)	今井 敏博 (デンソー)
	近藤 一義 (豊田工業大学)	竹内 雅彦 (愛知製鋼)
	棚瀬 幸彦 (旭サナック)	中西 広吉 (豊田中央研究所)
北陸地区	安藤 弘行 (コマツ産機)	白石 光信 (福井大学)
西日本地区	岡嶋 一晃 (メタルアート)	小坂田宏造 (大阪大学)
	窪田 勝昭 (ニチダイ)	阪村 芳一 (阪村機械製作所)
	高須 一郎 (山陽特殊鋼)	
南日本地区	小倉 真義 (住友金属小倉)	西川 淳二 (住友重機械工業)
	三木 武司 (日本文理大学)	
研究班主査	高温精密鍛造研究班	済木 弘行 (熊本大学)
	工具表面処理研究班	堂田 邦明 (岐阜大学)
	精密鍛造理論研究班	篠崎 吉太郎 (産業技術総合研究所)
	鍛造材料研究班	石川 孝司 (名古屋大学)
	鍛造CAE研究班	藤川 真一郎 (日産自動車)
	鍛造のエコロジー研究グループ	久保 勝司 (摂南大学)
	事例研究班	澤辺 弘 (三菱製鋼)
	鍛造IT研究グループ	塩見 誠規 (大阪大学)

## 今後の活動予定

2002年	10月4日(金)	第74回研究集会(北陸;小松)
	10月28日~11月1日	7 <sup>th</sup> ICTP(精密鍛造国際賞受賞式)(横浜)
	12月9日(月)	よくわかる鍛造基礎セミナー(西日本;阪大)
2003年	2月6日、7日	第30回実務講座(中日本;愛知製鋼)
	5月12日~15日	第3回国際精密鍛造セミナー(名古屋)
	6月 日	総会(中日本)
	11月 日	研究集会(西日本)
		アジア精密鍛造シンポジウム(韓国)
2004年	2月 日	実務講座(東日本)
	6月 日	総会(南日本)

## 鍛造分科会ホームページ

鍛造IT研究グループにより鍛造分科会のホームページが開設されました。今後データの更新、内容の充実を図ってゆきたいと思っています。ご活用いただけたら幸いです。一度ご覧いただき、ご意見をお願いいたします。

アドレス：<http://power.me.es.osaka-u.ac.jp/JSTP/Forging/>